

## 98 号 編集後記

『平成詩史論』の事ばかりになるが、そればかり掛かりっきりになっていたのも仕方がない。しかし、ようやく校正作業も終わりに近づいてきたと見えて、朱の数も原版点検の回数も目に見えて減ってきた。

人間とは不思議なものだ。もうこれが終わったら何もやるもんか、と思っていたのに、ケリがつく感触が手に入ったとたん、もう次の企画を考えている。

暑い暑いと言いながら、実は電車も部屋も全部寒い。